

大好き図書館！

秋の読書週間

テーマは「この一冊に、ありがとう」
期間：10月25日(火)～11月6日(日)

◆トショカククエストⅢ「カードバトル」

本を1冊借りるごとにスタンプ1個とし、スタンプ10個でカードバトルに挑戦できます。バトルに勝てば、ガチャガチャを回して景品をゲット！

◆県内図書館利用促進企画

大分県内図書館のバリアフリー・ユニバーサルデザインをパネルに掲示して紹介します。

◆フォトコンテスト「私の好きな日田！」

利用者に日田のおすすめポイントを撮影してもらい、展示します。利用者投票で1位に選ばれた人には、賞品が贈られます。

◆いつまでも本をキレイに！

「愛読書ブックフィルム掛け&マナーアップキャンペーン」本の修繕技術を紹介するとともに、いつまでもきれいな形で読めるブックフィルム掛けに挑戦してもらいます。

◆図書リサイクル会

一般図書や雑誌を中心に、無料で希望者に配布します。

※来館者の皆さんは、感染症対策をお願いします。

開館時間やサービスの内容は状況によって変更になる場合があります。詳細は、右記二次元コードから確認、又は図書館にお問い合わせください。



おいでよ！
おはなし会

□とき
10月8日(土)
午後3時～
10月22日(土)
午前11時～
□ところ
児童コーナー



10月の休館日(○…休館日)

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

新刊情報

福を呼ぶ四季の習慣小さな日本の行事
開運、良縁成就、邪気払いなどに
本間美加子／著 主婦の友社



立春、入梅、中秋の名月、大晦日など、日本の四季を彩る旧暦と二十四節気ゆかりの行事を、暮らしの中で楽しんでみませんか。開運、良縁などを呼び、邪気や病を祓い、家族や自分に福を招きます。どれも簡単で、おいしいものを食べる行事もたくさんあり、ふだんの日々が楽しく豊かになることでしょう。

手話で話そう

今月の手話⑦ 「お疲れ様」「よろしくお祈いします」

えいじ
今回の紹介者は、高倉英治さんです。

動画も公開しています。
一緒にやってみましょう！



お疲れ様

片手で拳を作って、もう片方の腕をトントンと2回たたきます。

「ご苦労様」や「疲れる」「苦労する」などを表現します。



よろしくお祈いします

片手拳を鼻の前に置いて、少し前に出します。「よろしく」「良い」を表現します。

拳を開き、頭を下げながら手を前に出します。「お祈い」を表現します。



※手話表現は、地域や年代で多少異なる場合があります。

☎社会福祉課障害福祉係 ☎2490 (市役所1階)

世界遺産登録を目指す「咸宜園」 -近世日本の教育遺産として-

淡窓・咸宜園と交流のあった文人・墨客たち⑬

すえひろうんげい しやくだいがん
廣瀬淡窓が幼少のころ関係のあった人々 ～末広 雲華(釈 大含)～

☎世界遺産推進室(咸宜園教育研究センター内) ☎240268



淡窓が10歳の頃、松下西洋(広報ひた7月1日号掲載)から一緒に学んだ学友に、豊前国中津正行寺の僧・末広雲華(釈 大含)がいます。安永2年(1773)、雲華は日田広円寺第五世道寧の第三子円寧の子として豊後国竹田の満徳寺に生まれました。姓は末広(弘)、名は信慶、雲華院大含と称し、鴻雪・染香人など諸号があります。天明4年(1784)、12歳で実父円寧と死別して、父の兄である広円寺の円門法蘭師のもとで成長しました。この頃、淡窓と共に松下西洋に学んでいます。そして寛政3年(1791)、19歳のときに実姉が嫁いでいた正行寺に養子として入りました。

その後、雲華は京都で仏学を学び、東本願寺高倉学寮(現在の太谷大学)の講師を務めました。また、詩文・書画にも優れ、頼山陽・田能村竹田・篠崎小竹らと親しく交遊しています。

淡窓は「大含は、後に豊前正行寺の住持たり。大谷の講師に任じ、声名地望一時に顕赫たり。予が同友中最も顕れたる者なり」と述べています。

雲華は、生涯にわたって淡窓や日田の文人らと交流を持ち続け、嘉永3年(1850)、78歳で亡くなりました。

さて、上野銭測町にある「石人」は筑後戸山古墳にあった筑紫国造磐井の遺物で、雲華から隈町の山田作兵衛がもらい受けたものと言われています。



◀石人の写真(日田市銭測町)

【漢詩の解説】
多くの男たちが運んだこの高い台地に、筑紫の国造磐井の遺物が在るといふ。霽にかすんだ樹々の間に、景行天皇が昔行幸された道に隣接し、僧の雲華院大含もかつて修業した座禅堂のそばである。時代の移り変わりが非常に激しかったのに、石人は無事であり、栄辱の浮き沈みは激しく起こったのに、石人はものも言わないで、よく遺つてきたものである。老詩人(私)がよく古物を好むために言うのではないが、いったい誰が古苔の痕を掃って大事にしてきたのだろうか。

左の漢詩は、淡窓が当時、鏡坂にあった「石人」について詠んだものです。

「百夫 輿を致す此の高原 道ふ
是に磐侯の故物存すと 煙樹 新た
に隣す行幸の路 雲華 曾つて入る
坐禅の門 滄桑幾変にして人恙無く
寵辱 多端たりて石言わず 詩翁
能く古を好む為に非ず 千年 誰か
掃ふ舊苔の痕」

食生活改善推進員さんのおすすめレシピ
鮭の牛乳入り炊き込みごはん



えのきたけの代わりに、お好みで舞茸やしめじ等を入れてもおいしくできます。



<作り方>

- ①米をとき、★とともに炊飯器に入れて、30分以上浸水させる。
- ②にんじんは長さ3cmの千切りにする。えのきたけは長さ3cmに切ってほぐす。
- ③鮭、にんじん、えのきたけを米の上のせて炊飯する。
- ④炊きあがったら鮭の皮と骨を除き、ほぐしながら混ぜる。
- ⑤味をみて薄いようであれば、塩を加えて混ぜる。
- ⑥器に盛り、黒ごまをふる。

■材料■ (2人分)

- ★牛乳 100ml ★酒 小さじ2 ★しょうゆ 小さじ1 ★水 100ml
- ・米 1合(150g) ・鮭 1切 ・にんじん 20g ・えのきたけ 35g ・塩 適宜 ・黒ごま 適量

☎健康保険課健康支援係 ☎243000 (ウェルピア)